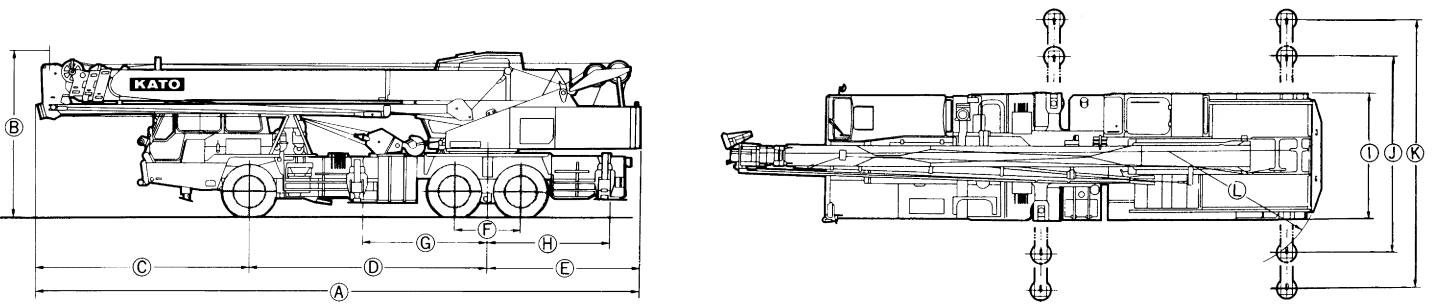


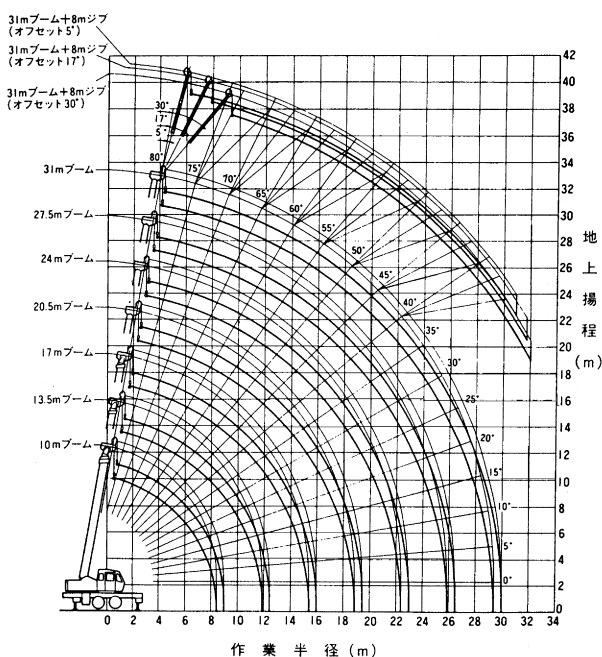
■全体図(単位mm) (1/150)



キャリア型式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
三菱W-KV208M	11,930	3,300	4,130	4,700	3,100	1,300	2,400	2,400	2,490	3,800	6,100	3,215
日産ディーゼルW-KW450MN	11,930	3,300	4,180	4,700	3,050	1,300	2,450	2,450	2,490	3,800	6,100	3,215

(単位:mm)

■作業範囲図



注：1) 本図はブームおよびジブのたわみを含んでいません。
2) 本図はアウトリガ最大張出のものです。

[注意]

- 1) 定格総荷重は水平堅土上において、本機の保証でできる最大荷重を示しており、フックその他のつり具等の重量を含んだ値です。なお 部分は機械の強度によって定められた値です。
■フックの重量

フックの種類	20トンフック	3トンフック
重 量	230kg	60kg
- 2) 作業半径はブームのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので必ず作業半径を基準として作業を行ってください。ただし、ジブの作業半径は31mブームにジブを装置してジブ作業を行った値を示し、その他のブーム長さでのジブ作業は、ブーム角度だけを基準として行って下さい。
- 3) ルースターシーブの定格総荷重は、ブーム定格総荷重と等しく、かつ、限度を3000kgとします。ただし、ブームにつり具等が取り付けられている場合には、定格総荷重より、つり具等の重量のほかにブームに取付けられているつり具等の重量も差引いて下さい。
- 4) ブームの長さか規定の長さを越える場合は、定格総荷重の小さい方の荷重で行ってください。
- 5) ジブを装置したままでブームの作業を行う場合は、定格総荷重よりつり具等の重量のほかに650kgを差引いて下さい。なお、この場合ルースターシーブは使用しないで下さい。
- 6) ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意して下さい。
- 7) アウトリガ張出状態によって側方域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。アウトリガ最縮小状態でのフロントジャッキ使用時には、前方つり上げは、不使用時と同一性能になっています。
- 8) フックの最小巻掛本数は、ワイヤーロープ1本当たり3000kgを越えない範囲で決定しますが、各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は、下表の通りです。

ブーム長さ	10m-17m	17m-31m
巻掛本数	7本	4本
- 9) アウトリガ最大張出状態でのフロントジャッキ不使用時には、前方つり上げは、後方・側方つり上げより低い性能になっています。側方つりから前方つりに入る場合には、過荷重になる恐れがありますから充分注意して作業を行ってください。
- 10) 自由降下は原則としてフックのみを降下するときに使用しますが、やむをえず、つり荷を自由降下する場合には、定格総荷重の20%までを限度とし急激なブレーキ操作は絶対に避けて下さい。
- 11) 定格総荷重表は風による影響を含んでいません。瞬間風速が10m/secを超える場合は作業を中止してください。
- 12) 定格総荷重を超える作業を行った場合、及び正しい使い方を行わなかった場合は、転倒又は破損します。この場合本機の保証はいたしません。